

2021

JAN. 1 vol.49

東京成徳広報



東京成徳大学深谷中学・高等学校で制作された『巨大貼り絵』



学校法人 東京成徳学園



SoftBank ウインターカップ 2020 令和 2 年度 第 73 回全国高等学校バスケットボール選手権大会 東京成徳大学高等学校 女子バスケットボール部 栄えある準優勝

12月23日より全国の精鋭60チームによって競われたこの大会、東京成徳大学高校は1、2回戦を大差での勝利、準々決勝・準決勝は接戦となりましたが僅差で勝利し、28日の桜花学園高校との決勝戦に臨みました。

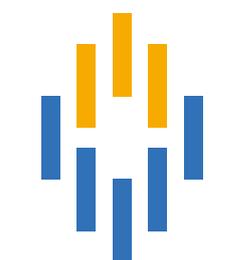
相手は全国から選手が集まる強豪校。白熱の決勝戦は、速いパス回しと3点シュートで攻める東京成徳大学高校に対し、桜花学園高校の留学生による長身を活かしたポストプレーで、序盤からリードを奪われる展開に。第2クォーターには拮抗する戦いを見せましたが、選手の頑張りも及ばず、準優勝となりました。

清々しい涙と笑顔で戦った選手たちの奮闘を称えたいと思います。

January 2021 vol. **49**

C O N T E N T S

- P 3 **巻頭言「コロナウイルスがもたらしたもの」**
東京成徳学園 学園長 木内 秀俊
- P 4 **特集1「ブランド・ステートメント、タグラインの発表」**
ブランド戦略会議 議長/東京成徳大学 学長 新井 邦二郎
ブランド・ステートメントに基づく夢・構想 (大学院、大学各学部、短期大学)
- P 8 **特集2「東京成徳大学・東京成徳短期大学
グローバル教育センターの新設」**
グローバル教育センター長 芳賀 克彦
- P 9 **クラブ活動報告/コロナ禍の学園祭**
中学・高等学校 深谷中学・高等学校
- P 10 **ひと『活躍する卒業生』**
鶴ヶ島市市議会議員 金泉 婦貴子さん
- P 12 **特集3「新型コロナウイルス感染症対策」**
各校の対応 (大学 短期大学 中学・高等学校 深谷中学・高等学校 幼稚園)
- P 15 **Topics** P15 大学/短期大学
P16 中学・高等学校/深谷中学・高等学校
P17 幼稚園
- P 18 **進路「大学・短期大学の就職状況」**
大学・短大就職支援センター長 猪又 優
内定者インタビュー
- P 19 **表彰・受賞のご紹介/学園の動き「学園人事」**
教職員の受賞 採用・退職・異動 訃報
- P 20 **2021年度入試予定・お問い合わせ先**



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク
イエローは「活力」と「勇気」を表し、
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、
同窓生を象徴しています。
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五
本の柱は五つの教育目標を象徴していま
す。
そして、八本の柱が一体となり、東京成
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 東京成徳大学深谷中学・高等学校で制作された『巨大貼り絵』

生徒会が企画し、中学・高校の全校生徒が参加して完成させた縦3.75メートル、横12メートルのとても大きな貼り絵です。

貼り絵には、深谷市役所新庁舎をバックに、深谷市で生まれ近代日本経済の父と呼ばれた「渋沢栄一」と深谷市のマスコット「ぶっかちゃん」が描かれています。



「コロナウイルスが

もたらしたものの

東京成徳学園 学園長 木内 秀俊

一・パンデミックの発生

令和2年の最大の出来事はコロナウイルスによるパンデミックの発生である。コロナウイルスの蔓延は社会、経済、政治など人間社会のあらゆる面に強い影響と被害をもたらし、日常生活が失われる事態になった。

パンデミックは歴史上で何回も起きたことであり、古より人類はペスト、天然痘、コレラなどによるパンデミックの発生で多くの人命を失う災厄を繰り返し経験してきた。約100年前にはインフルエンザ（スペイン風邪）が大流行し、世界中で数千万人に及ぶ死者を出しわが国でも約39万人が死亡したといわれている。

今回のコロナウイルスの流行はまだ収束していない。現状でも既に世界全体で百万人を超える命が失われた。また東アジア地域は比較的落ち着きを取り戻したと思われるが、欧米・アフリカ・アジアなど全世界の広範な地域で第二次、第三次の流行が懸念されている。

二・パンデミックで生じた現象

コロナウイルスの感染拡大を避けるためには人と人の三密（密集、密接、密閉）状態の回避が求められ、直接的な接触の厳しい制限や人・物の移動の制約と縮小が世界中で起きた。

現代は世界が社会経済面で緊密に結びついて国境を越えてサプライチェーンが形成されており、その毀損は社会経済に広範で深刻な打撃を与えた。社会経済活動の抑制により消費行動は極端に縮小し飲食、宿泊、交通業界などの分野は存続の岐路に立ち、スポーツや文化的なイベントの開催も厳しく制限されてこの分野も苦境に立たされた。

コロナウイルスは人と人との具体的な直接的な絆やセーフティネットを毀損した。職場ではリモートワーク、教育の場ではリモート授業などIT技術によつて接触を避けた方法での活動が広まった。一方医療の逼迫は医療従事者に大きな負担を強いた。他方病院・福祉施設などでは面会禁止

により患者・老人に精神的・身体的な負担を生じさせた。

三・パンデミックへの対応

百年前のスペイン風邪によるパンデミックは三波の波を経て収束したがウイルスの特定とワクチンの開発は流行時に間に合わず、多くの犠牲の上に人々が集団免疫を獲得して収束したと考えられている。医療は百年の間に進歩したが、ワクチン開発にはなお時間を要し、その間犠牲者の発生と増加は避けられない状況である。現在はワクチンができるまで感染拡大を抑えて医療崩壊を起こさないことが課題となっている。

今回のコロナウイルスへの対応にはスペイン風邪の際と驚くほど類似している点がある。マスクの着用、手洗いなどは当時も行われており行動・移動の自粛も行われた。一方現在は人口が増大し都市が巨大化したため強制的な行動・移動制限や都市封鎖が大々的に行われている。しかし各国政府の対応は社会経済の維持と感染防止の間で相反する政策や行動がなされているのが実情である。以前よりはましになったもののコロナウイルスに完璧に対処することには残念ながらまだ人間の限界を感じざるを得ない。

四・パンデミックと教育

パンデミックは集団教育としての学校制度や教育の在り方にも大きな衝撃を与えたと感じる。学校は長期の休校を余儀なくされ学習の遅れや授業時期のしわ寄せと式典・行事の中止が相次いだ。三密を避けて分散授業やリモート授業による対応がなされた。リモート授業は緊急避難的に行われ評価はまだ定まっておらず今後も改善が必要だが、IT社会での知識習得に馴染み学習の場所にも縛られない利点がある。

しかし現在は知識・情報を基礎に新しいことに挑戦する力や創造力・実行力を養うことが重要となっている。それには人間同士の直接的な接触による相互刺激の効果を期待し得るリアルな対面授業も必要と思う。また授業・クラブ活動・行事を通じた集団生活の場での相互刺激と切磋琢磨は人としての成長や新しい発想の基盤となる。

従つて今後はリアルな学校生活・授業とリモート授業のハイブリッドな授業形態の検討がなされよう。加えて教育方法の見直しとともに教育内容・教育目的など根本的な教育の在り方を探る試みも今後なされていくものと思う。

東京成徳大学・東京成徳短期大学では、創立100年に向けて東京成徳学園のブランドを構築するべく、2019年10月「ブランド戦略会議」を組織し、ブランド・ステートメント並びにタグラインの策定に取り組んできました。

今号では、約1年にもわたったこの取り組みを、ブランド戦略会議議長として議論を進めた、東京成徳大学新井邦二郎学長よりご紹介いたします。

ブランド戦略会議議長
東京成徳大学学長

新井 邦二郎

ブランド戦略会議は、ワークショップ

プや全教職員による研修会、アンケートを実施し、その成果として枠の中のようなブランド・ステートメントとタグラインを掲げることになりました。

■ ブランド・ステートメント

多様性の中で共生し、
新たな自分を発見するとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。

■ タグライン

つながる学び、ひろがる未来。

ブランド・ステートメントについて

ブランド・ステートメントは、「学校が掲げる理念や使命を簡潔な文に表したものです。それは、その学校が社会に存在する意義の内容を表すもので、学校が社会（特に学生や保護者）に対し約束する教育の内容を示すとともに、学校で働く教職員の共通する教育方針の内容となるものです。

大学・短期大学は、学園の一員として「建学の精神」の「徳を成す人間の育成」及び「東京成徳ビジョン100」の「成徳」の精神を持つグローバル人材の育成」を掲げ日々の教育、研究に取り組んできました。これらと現在及び近未来社会の教育課題とを照合し、また学校の強み、特長を生かし、さらに教職員がアイデンティティを持てるものとして、「多様性の中で共生し、新たな自分を発見するとともに、自らの信念をもって未来

をデザインする人材を育成します。」をブランド・ステートメントにしました。

このブランド・ステートメントの意味するところは、グローバル化が一層進むこれからの社会で、人種や民族、宗教や国籍、言語や思想、性別や性的指向、価値観や物の考え方などの「多様性」を受け入れ、必要な助け合いをすることで生きていく「共生」を学問や経験を通して学ぶこと、そしてこの学びや経験を通じて、これまでの殻を打破る「新しい自分の使命や役割の発見」をしながら、確固たる「自分自身の信念」を作り、「自分の未来」、「自分たちの社会の未来」を「描き、切り拓いていく」人材を育てることを、学校の基本指針としたことです。

タグラインについて

タグラインは、「学校が持つ教育の特長を社会（特に学生や保護者）に簡潔に伝えるための短い言葉」です。「つながる学び、ひろがる未来。」のタグラインは、これまでも学生募集広報をはじめ各所で使用していましたが、その中でコロナ禍により普及したオンライン授業が世界の人々とながら可能性を予感させ、「つながる

学び、ひろがる未来。」を再評価するに至りました。

このタグラインの中の「つながる学び」には、①「友だちと一緒に学ぶ」という意味のほか、②「学びを通して日本や世界の未知の人々とながら」などの意味を持ちます。さらに「ひろがる未来」は、「つながる学び」を通して、自分の未来の可能性が大きく広がっていくことを示しています。

今後の展開

ブランド・ステートメントとタグラインを決めたことは、これまで知名度に難のあった本学のブランドづくりのスタートラインです。私立の学校を人体に例えれば、建学の精神は心臓、ブランド・ステートメントやタグラインは血液。ブランド・ステートメントやタグラインが有意義に活用されるほど、建学の精神に血が通います。

そのためには、教職員がブランド・ステートメントやタグラインの意味の理解を深め、そのうえで日々の仕事にそれを生かしていくことが不可欠です。と同時に、教職員の仕事を社会に積極的に発信していくことも強く求められているといえます。

ブランド・ステートメントに基づき、今後期待する夢や考え得る構想などについて、大学院研究科長、大学各学部長、短期大学科長に伺いました。

大学院心理学研究科

心理学研究科長 石隈 利紀

多様性の理解から多様性の共生へ

大学は教育機関として、一人ひとりの学生が、自分らしく、社会と関わりながら生きていく力をつける「教育的責任」と未来の社会をつくる人材を養成する「社会的責任」があります。2020年、有徳な人材を育てることを建学の理念とする東京成徳大学は、この2つの責任をブランド・ステートメントで表現することになりました。「みんな違ってみんないい」という多様性の理解から「互いにつながり共生する」という多様性の共生（行動）に進む大きなステップを埋めるのが、「徳」ではないかと、私は思います。心理学研究科は、「心理学・心理支援の科学者・実践家（サイエンティスト・プラクティショナー）」を育てることをミッションとしております。修士課程の公認心理師養成においては、多様性の中で起こる様々な心理的葛藤を理解し援助できる人材を育てようカリキュラムの再検討をしたいと思えます。公認心理師の職業的倫理として、「すべ

ての人々を公平に扱い、社会正義と公平・平等の精神を具現する」ことがあります。授業科目において、「多様性の理解と共生」、「多様性社会における少数派の理解」について学べる内容を盛り込みます。例えば、外国につながる者、精神障害や発達障害のある者、LGBT、不登校・引きこもり、キャリアで失敗した者などの理解と支援をしっかりと学べるようにします。さらに修士課程・博士課程の学生と教員で、「多様性をつなぐ成徳の心理と行動」に関する研究を始めて、全学の共同研究に発展させたいと願っています。

応用心理学部

応用心理学部長 吉田 富二雄

広く深く豊かな学びを

応用心理学部の最も大きな課題は、「臨床心理学」と「健康・スポーツ心理学」が、車の両輪となつて、応用心理学部を力強く走らせ、オール東京成徳の一員として、学園創立100年に向けて大学を牽引する綱の一つをしっかりと握ることができるようになることです。

臨床心理学は、4年前に学年進形の形で千葉キャンパスから東京キャンパスに移転し、昨年初めて東京キャンパスから卒業生を送り出しました。現在、福祉心理学科の一部を吸収した定員も112人と拡大し、国家資格の「公認心理師」への対応も順調に進み、本格的な「外部実習」を今年の4年生からスタートさせます。そして「公認心理師」対応が一段落ついたら、「社会・産業領域」の強化が次の課題になります。卒業生の大部分が企業に就職する今、データ・サイエンスにも力を入れ、社会で情報を分析し、新たな企画を生み出すことのできる人材を養成したいと考えています。

生まれ変わることになります。キーワードは「ウェルネス」。単なる健康（ヘルス）ではなく、より積極的に「生き生きと豊かな人生を目指す状態」を意味しています。「メンタルトレーニング論」「エアロビクス」「笑いの科学」など、興味深い授業科目も新たに用意され、今から楽しみです。

もともと心理学は、日常生活の中から問いを見つけ、実験や調査で（つまりデータに基づいて）答えを見つけたいことを得意としています。幸い

「両学科共通の土台となる「心理学」は、「対人関係」の積み重ねにより形成された「心」を対象とする科学です。対人関係は、つながりという観点から見ると「自己とのつながり」、「他者とのつながり」、「社会・組織とのつながり」の三つに分けて考えることができます。ブランド・ステートメントに則していえば、「新たな自分の発見」「多様性の中での共生」、「社会の中に自分の居場所を見つけること、すなわち、自らの未来をデザインすること」ということができそうです。

「経営学部」があります。やがて、学部を超えて異なる専門領域が「つながり」、学生諸君の「学び」をより豊かで充実したものにできるのではないかと期待しています。

「健康・スポーツ心理学科は現在移転進行中ですが、2022年度には、東京キャンパスへの移転が完了し、「都市型」の健康・スポーツ心理学科に

生まれ変わることになります。キーワードは「ウェルネス」。単なる健康（ヘルス）ではなく、より積極的に「生き生きと豊かな人生を目指す状態」を意味しています。「メンタルトレーニング論」「エアロビクス」「笑いの科学」など、興味深い授業科目も新たに用意され、今から楽しみです。

「両学科共通の土台となる「心理学」は、「対人関係」の積み重ねにより形成された「心」を対象とする科学です。対人関係は、つながりという観点から見ると「自己とのつながり」、「他者とのつながり」、「社会・組織とのつながり」の三つに分けて考えることができます。ブランド・ステートメントに則していえば、「新たな自分の発見」「多様性の中での共生」、「社会の中に自分の居場所を見つけること、すなわち、自らの未来をデザインすること」ということができそうです。

国際学部

国際学部長 芳賀 克彦
未来に通用する人材育成が課題

この1年間、ブランド戦略会議に委員として参加させて頂きました。非常に素晴らしいブランド・ステートメントができたことに誇りを感じています。それと同時に、このブランド・ステートメントが表明する人材育成を実現するために、国際学部及び本学がどのように変わらなければいけないかというのを今後教職員全員でよく考え、実行することが極めて重要であるとの認識を新たにしているところです。

この短いステートメントの中には「多様性の中の共生」、「新たな自分の発見」、「自らの信念をもって未来をデザインする人材」といったキーワードが含まれています。今後、私どもはこれらのキーワードが示している内容を教育上の到達目標として掲げつつ学生を育てていかなければなりません。

まず、「多様性の中での共生」については、現在のアメリカ社会において政治的分断、人種差別問題、経済格差などが一層深刻になってきている状況を踏まえれば、「共生」を実現することがいかに難しいかとい

うことは明らかですが、そのような厳しい現実をしつかり理解したうえで、「社会正義」とは何かということ

とをきちんと理解し論じることができるとき若者をカリキュラムの中で育成することが重要と考えています。また、日本社会の少子高齢化の結果として日本国内は必然的に国際化が一層進んでいきます。また、高度情報化社会が進行する中で、従来にはない働き方や新たな価値観が生まれています。このような新たな社会の変化を迅速に理解し、自分自身を柔軟に適応させ、自分の生き方や将来をデザインできる若者を育成することが求められています。

国際学部は日々変化する日本及び国際社会の状況を理解させ、それらに対する適応能力を養成するフロンランナーでありたいと考えています。学生を海外に留学させ、異なる言語、社会、価値観を体験させ、帰国後はそのような経験を専門科目の履修を通じて知識に変えていく。また、そのような経験、知識を基礎として社会でどのような仕事に就いて、どのような生き方をすべきかよく考えることができる学生を育てたいと考えている次第です。

うことは明らかですが、そのような厳しい現実をしつかり理解したうえで、「社会正義」とは何かということとをきちんと理解し論じることができるとき若者をカリキュラムの中で育成することが重要と考えています。また、日本社会の少子高齢化の結果として日本国内は必然的に国際化が一層進んでいきます。また、高度情報化社会が進行する中で、従来にはない働き方や新たな価値観が生まれています。このような新たな社会の変化を迅速に理解し、自分自身を柔軟に適応させ、自分の生き方や将来をデザインできる若者を育成することが求められています。

子ども学部

子ども学部長 永井 聖二
子ども研究の拠点として

子ども学部の存在意義は、優れた学生を社会に送り出し、わが国の教育、保育の発展に資することですが、もう一つ、子ども学研究の拠点として子ども研究の発展に寄与し、今日複雑化する子ども問題の解決に貢献することも重要な課題です。

わが国において1980年代以降、子ども学への関心が高まったのは、この時期からさまざまな子どもの「病理」が「問題」として意識され、危機感を込めて論議されるようになったことを背景としています。また、この時期になると方法論に特徴をもつ既成の科学が、社会の変化や高等教育の大衆化に対応し得ないことが次第に明らかになり、国際、情報、人間、さらには子どもといった既成の科学には対応しない新しい学問の分野が求められるようになったことも、その背景といえるでしょう。

1970年代の後半から、これらの分野の名を冠する、学部での教育と研究の関係が組織としては明瞭でないアメリカ型の大学をモデルにした学部がわが国に多く設置されるようになったのは、もちろん大学経営

上の戦略によるものでもありますが、基本的にはそれが理由です。いうまでもなく、子どもは全体として人間ですから、もともとその存在を理解するためには多面的な接近が必要です。子ども学が、心理学、社会学、文化人類学など、様々な科学の方法論による個別の成果を前提としつつも、子ども学として領域を対象とする学問が成立すべきである理由が、ここにあります。とりわけ子どもの生活、養育環境の多様化が進展する今日の状況のもとでは、それぞれの方法論による諸科学の知見を総合し、より複合的なりアリティの構成が目指され、それが転換期の子どもとその周囲の大人の支援に貢献することが不可欠の課題になります。

子ども学部が、こうした課題に貢献し、複雑化する子ども問題の解決に貢献すること、ひいてはそれが本学の社会的評価を高め、有為の人材が集まる大学としてますます発展する一助たり得ること、それが子ども学部の将来への私の希望です。そして、そのことが多様性の中で共生し、新たな自分を発見し未来をデザインする人材の育成につながると期待しています。

子ども学部の存在意義は、優れた学生を社会に送り出し、わが国の教育、保育の発展に資することですが、もう一つ、子ども学研究の拠点として子ども研究の発展に寄与し、今日複雑化する子ども問題の解決に貢献することも重要な課題です。わが国において1980年代以降、子ども学への関心が高まったのは、この時期からさまざまな子どもの「病理」が「問題」として意識され、危機感を込めて論議されるようになったことを背景としています。また、この時期になると方法論に特徴をもつ既成の科学が、社会の変化や高等教育の大衆化に対応し得ないことが次第に明らかになり、国際、情報、人間、さらには子どもといった既成の科学には対応しない新しい学問の分野が求められるようになったことも、その背景といえるでしょう。1970年代の後半から、これらの分野の名を冠する、学部での教育と研究の関係が組織としては明瞭でないアメリカ型の大学をモデルにした学部がわが国に多く設置されるようになったのは、もちろん大学経営

経営学部

経営学部長 村山 純

夢の経営学部

組織は、すべからず、社会の要請・要望にこたえるべく、変化していかねばなりません。当たり前のことで、さもないと、厳しい競争が繰り広げられている中、組織が生き残り、発展することは難しい。しかも、経営学部に対する社会の要望・要請は多様です。

ちよつと考えただけでも、例えば、①国連からは、SDGsに対応して欲しい、②政府からは、役立つ研究成果をあげて欲しい、また、教員はポットとしている時間を減らし研究にいそしんで欲しい、③経済界からは、すぐに企業で活躍できるグローバル人材を輩出して欲しい、また、DX*に対応できる教育をして欲しい、④学生からは、できるだけ楽しく勉強して大卒資格がとれるようにして欲しい、などが思いつきます。

これらに対応するには、例えば、①SDGs対応委員会を組織し、その組織規程を制定する、②成果主義の人事管理を導入する、③グローバル人材育成委員会とDX対応委員会を組織し、その組織規程を制定する、④学生に知的負荷をかけない授業を

し、グループワークなどの作業で達成感を与える、などが考えられます。また、達成計画を作成して、そのPDCAサイクルを回していくことも重要です。

しかし、こうした対応策に優先順位をつけるのは難しいし、実は、問題意識そのものが間違っている可能性もあります。というのも、社会の要請・要望そのものが、移ろいや早く、それらに引きずられていくと、ただただ忙しく、自分自身の姿を見失う恐れが多いからです。

古代ギリシア語の「暇＝スコレー」がその後、英語で学問を意味する言葉に変化していったことからわかるとおり、学問するには、暇が重要です。ポットしながら、あれこれ思いついたことを教えたい人間が教師になり、学生もそれを教わりたい。そうした気持ちの交錯のなかから、活発な議論と新しい考え方が生まれてくる、これが理想のような気がしてなりません。

夢の経営学部を作るには、まず、みんなが暇でゆつたりとした気分になることが大事です。変化の激しい時代だからこそ、現実から少し距離を置いて、その本質をとらえる、そんな営みのできる学部を目指したいと考えますが、どうでしょう。

短期大学 幼児教育科

幼児教育科長 安見 克夫

貴方の未来をassist the短期大学

学園は2025年に100年、短期大学は創立60周年を迎えます。学園創立100年に向けて「東京成徳ビジョン100」を策定し『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」を目指すこととなりました。各部門では、2017年から3年ごとに、中長期計画を策定し実践的側面からの取り組みを開始しました。そして2020年、本学のブランド戦略として、ブランド・ステートメントとタグラインを制定し、広く社会に浸透し社会と共に歩むグローバル人材の育成を目指すこととなりました。それを受け、新しい時代に向け短期大学のブランドを社会にアピールし、短期大学幼児教育科の社会的使命を恒久的に担えるよう取り組みで参ります。

そこで今、短期大学幼児教育科の強みとは何か、そして、今後の課題について本学准教授田中浩一先生が学科を代表し方向性を示してくださいました。まず、強みの一点目としては50年以上にわ

たる保育者養成課程としての伝統です。卒業生も今や1万人を超え社会で活躍しています。二点目は、免許の取得率と就職率の高い実績を持つことです。三点目に、学生と教員の信頼ある関係性が常に保たれ、いかなる時も全教員が学生や保護者を親身になってサポートし、学生の利益のために対応できることです。そして四点目は本学の近隣幼稚園や保育所等を訪問し、実習とは異なる実践力や即応力をも身につけられる点です。また、狭義的な日本の幼児教育の学修に留まらず、海外研修視察や本学独自の比較児童文化演習で、諸外国の保育制度や文化子育ての実情についてグローバルな視点から広く学ぶことができるのも魅力です。

今後の課題としては、一人ひとりの学生が、ゆとりを持って人間力を培えるようカリキュラムを見直し、本学を愛し良きふるさとになるよう学生生活のあり方について提言していきます。また、卒業生とつながる同窓会を通して、まさに「つながる学び、広がる未来。」に向けた、学生・教員・卒業生との強固な関係を構築していくことです。

今回のステートメントが強い発信力となるよう教員一人ひとりの自覚のもとで、学生や社会に浸透させていきたいと思っております。

つながる学び、ひろがる未来。	
東京成徳短期大学 幼児教育科としての強み（長所）・課題	
強み（長所）	課題
約50年以上にわたる伝統「つながる」高い資格・免許の取得率と就職の実績 学生と教員の関係性の近さ グローバルな広い知識と実践力	異業・異職種間での協働体制の構築 卒業生とつながる同窓会 他学部・他学科とのつながり 短期大学の魅力の発信

*DX：デジタル・トランスフォーメーション デジタル技術により生活を便利にしたり、既存ビジネスの構造を変革したりするなどの新しい価値を生み出すイノベーション。

東京成徳大学・東京成徳短期大学
グローバル教育センターの新設

大学全体のグローバル化と
グローバル人材の育成を推進

2020年4月、東京成徳大学・東京成徳短期大学に「グローバル教育センター」が新設されました。「東京成徳ビジョン100」で掲げる『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成に向けて、海外留学や海外研修の窓口を一本化し、留学生の派遣と受け入れ双方の業務を担います。当センターにより、これまでに築いた海外教育機関とのネットワークが、さらに強固になることが期待されます。

グローバル教育センター長
国際学部長

芳賀 克彦

「東京成徳ビジョン100」が掲げる大学教育におけるグローバル化を具体的に推進することを目的として、2020年4月に東京成徳大学・東京成徳短期大学グローバル教育センターが設立されました。当センターは昨年度まで国際交流委員会が担当していた交換留学、半期留学、短期海外研修、交換留学生の受け入れに関わる業務などをすべて継承するとともに、全学を対象としたこれらの留学関連事業の拡大及び国際交流ワークショップ、イベントなどの開催を通じて、大学全体のグローバル化

とグローバル人材の育成の推進を目的としています。また、海外への留学生の派遣については、これまで、海外にネットワークをお持ちの先生方の個人的なノウハウとご尽力により実施されておりましたが、当センターの設立により海外への個別留学の窓口を当センターに一本化するとともに、渡航手続きや出発前オリエンテーションなども当センターで一元的に管理することにより、留学に携わる先生方の負担軽減、留学生の派遣に関わる各種ノウハウのセンターへの蓄積も目的としています。このような目的を達成するために、センター長のほかに、副センター長及び事務局職員も配置し、また、各教育組織から委員の先生方にも参加頂いております。一方、事務局では従



左から水落職員、芳賀センター長、直井副センター長

来から留学生・国際交流業務に関係しているキャンパスライフ支援課及び教務課と当センターとの連携体制を構築しています。また、6号館1階のグローバルラウンジの一角に当センターのカウンターも設置しました。

留学生の派遣という点においては、昨年度に発足した国際学部との情報交換及び連携も業務を効率的に進めるうえで非常に重要と考えられています。韓国においては、従来から交換留学等でお世話になっていく複数の留学先に国際学部の学生がグループ派遣されることになりました。また、オーストラリアにおいては、これまでインターンシップ付き半期留学でお世話になってきたメルボルンのディーキン大学にも同様にグループ派遣を準備中です。このように本学から国際学部とグローバル教育センターの2つのルートを通じて海外の同じ大学に留学生を派遣する事例が出てきましたので、両者による情報交換は留学生の派遣手続きだけでなく、新たな留学先の開拓などにおいても非常に重要になっていきます。留学生の安全対策基準についても、本年度から国際学部と当センターが統一の基準を設定しています。

本年度は新型コロナウイルスの影響により、新規の留学生の募集や派遣は見合わせる事になりましたので、前期はこれまで行われてきた留学生の募集・選考・派遣手続きの見直し、各留学先及び留学ハンドブックの内容の見直しなどを中心に行いました。後期は全学を対象としたベルリッツ*講座を開設しています。

次年度からは、交換留学、半期留学等に加え、夏休み・春休みを利用した短期海外研修、6号館1階のグローバルラウンジを利用した青年海外協力隊OB・OGによるワークショップ、日本人及び留学生によるスピーチコンテスト、外国人留学生と日本人の学生の交流イベントなどをコロナ対策も講じつつ、積極的に実施する予定です。このような取り組みを通じて大学のグローバル化に少しでも貢献できれば幸いです。



国際学部1期生の留学の様子は、大学・短大HPの「留学通信」をご覧ください



上記写真は「留学通信」からの転載

*ベルリッツ
140年以上にわたり、世界70以上の国と地域で語学スクールを展開するグローバル企業。

クラブ活動報告

東京成徳大学高等学校

高等部 教諭 倉橋 賢吉

東京成徳大学深谷中学・高等学校

教諭 小原 啓雅



女子バレーボール部は関東大会出場を目標に活動しています。高3にとつては春季大会が重要で、この大会のためには冬の練習に励んできました。コロナによる自粛期間中も再開を信じ、自宅での筋トレやランニング、オンラインで今後の活動を議論するなど、精力的に活動しましたが、春季大会さらには最後のインターハイ予選が中止となりました。そこで、3年生に、これまでの成果を少しでも発揮してもらいたいと、引退試合を計画。中々相手は見つかりませんでした。度々練習試合を行い、共に成長してきた中央学院高校が試合に応じてくれました。公式戦ではありませんでしたが、最後にユラオームで想い出多い相手と思いきり試合ができました。選手表情は明るく、試合後も晴々としていました。今後は、部活動から受験勉強中心の生活となります。部活動で得たことを力に変え、進路を切り開いてくれることを願っています。



各部活動とも、コロナ禍でも精力的に取り組み、大会で好成績を収めました。

2学期は、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、日常の活動や対外試合などが行われました。県の大会で上位に進出したのは、弓道部とパワーリフティング部でした。弓道部は、県民総合スポーツ大会兼高校弓道新人戦で、女子団体が第5位、女子個人では見事優勝を果たしました。なお、鹿児島国体の高校女子代表選手に選ばれていた生徒もいましたが、同国体が中止になり、残念ながら参加することはできませんでした。

パワーリフティング部は、埼玉県パワーリフティング選手権大会（高校生部）において、男子59kg級で優勝と第2位、男子74kg級で第2位の好成績を収め、全国大会への出場権を獲得しました。

「コロナ禍の学園祭」
【中学・高等学校】

16、17ページの各校のTopicsでもご紹介しています。

東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 オンライン桐蔭祭・体育祭



「略語」について発表する3年女子生徒。

深谷中学・高等学校



貼り絵の貼り合わせ作業。作業の結果は表紙をご覧ください。



体育祭恒例ダンスパフォーマンスも制限のある中、実施しました。



中学生全員が力を合わせた作品は、ホームページで公開中です。

高等部 「SEITOKU DAY」



競技が始まる前、円陣を組んでみんなの団結力を高めます！



球技大会の一つとして人工芝の校庭で行ったサッカー競技。



オンラインの文化祭で、生徒の活動を動画で配信しました。



『SEITOKU DAY』の展示に向け、制作に励む男子生徒。

コロナにより、各校学園祭は例年どおりの開催はできませんでしたが、工夫を凝らして行った取り組みを紹介いたします。

東京成徳大学中高の一貫部ではオンライン桐蔭祭（文化祭）を開催。作品発表や実験、部活動などの様子を公開しました。体育祭は規模を縮小しましたが、SNSで経過を随時配信するなど工夫もありました。高等部では、在校生限定の公演や展示、動画公開に取り組み、また球技大会を並行して実施しました。移動の時間を分散するなど、こちらも運営上の三密対策が多くありました。

東京成徳大学深谷中高の中学では、規模を縮小し、桐蔭祭を開催。例年は、在校生の保護者や本校の受験を考える小学生などにも公開していますが、今年は在校生のみとしました。生徒の発表では、発表する態度だけでなく、聞く態度も大変素晴らしいかったです。一方、高校は残念ながら、今年度は中止となりましたが、全校生徒で巨大貼り絵に取り組みました。完成した巨大貼り絵（表紙写真）は、総合体育館のステージに設置し、全校生徒や教職員はもちろん、学校説明会や部活動の大会で来校した人々の目も楽しませてくれます。

ひと

『活躍する卒業生』

社会で活躍する東京成徳の卒業生をご紹介します。今号は、現在鶴ヶ島市議会議員として活躍する金泉婦貴子さんをご紹介します。

金泉さんは、これまでに市議を17年、議長も2度お務めになつています。

東京成徳高等学校（1967年3月卒業）

（現 東京成徳大学高等学校）

東京成徳短期大学文科（1969年3月卒業）

埼玉県鶴ヶ島市
市議会議員 **金泉 婦貴子**さん



在学時代の思い出

私は東京都北区王子5丁目に生まれ、後に足立区新田に移り東京成徳の近くで育ちました。どちらかというと体が弱かったので、体への負担を考え、高校は家からも近い東京成徳を選びました。その後、東京成徳短大へ進学したのですが、当時は学長の

熊澤龍先生をはじめ、あこがれの先生、ご高名な素晴らしい先生が多く、勉強がとても楽しかったです。それに先生方が非常に温かい雰囲気です。旅行にご一緒して話し合ったり。菊の花がお好きな先生は私どもを自宅へ招いて沢山の菊の説明をしてくださいました。また、友達と一緒に桐友会（学園祭）の実行委員を務めたのも楽しい思い出です。

当時担任だった安西勉夫先生の言葉が今でも心に残っています。

「ムダなことつとでも大事なことで成長していかないと人間として一歩前に入る瞬間をつかんで欲しい。いろいろなことに関わりを持ちながら、自分がこれなら打ち込めることに没頭して欲しい」と。この言葉は、私の人生の大きな指針となっています。

市議会議員を志された動機はその後の活動は

25歳で結婚し板橋に居住しました。板橋に住む間、長男の幼稚園で母の会（保護者会）の会長をやりました。子どもは一男二女ですが、鶴ヶ島市に転居したのは一番下の長男が小学校に入学する時で、同じ小学校に子ども

3人が通いました。初めての土地でしたので地域に慣れたり、お友達をつくらしたりするにはPTAの役員になるのが一番早いと思い、役員を計6年務めました。後半は副会長、会長を計4年務めた。比較的、コミュニティに入るのは好きなのだと思います。

その後も地域の方から自治会役員や民生委員の仕事をお勧められるなど、段々と地域のことに関心を持つようになり、鶴ヶ島市は、当時の私も含め、人口が急増した地域でした。そのため、様々な声のある街でした。その本化できませんでした。私も、この街がどうなったら良いのか、子育てのしやすい街にするには、など考えるようになつていました。

自治会副会長の時、ある選挙を手伝って欲しいと頼まれたことがありました。また、PTA連合会で他地区の人々と交流していると議員の方も多くいらつしやつたこと、これらが政治に関心を持つきっかけだったように思います。自治会のあり方、目指す方向を自分なりに考えている時、前任者の退任による市議会議員の選挙があり、「これからは女性が活躍する時代」と立候補を後押しする要請があったのです。

サラリーマンであまり政治に関心を持たなかった夫がよく許してくれたと思うのですが、同居していた夫の両親、特に義父が熱心でやってみたらと言ってくれました。家庭で為すべきことをきちんとやれば出て来ても良いという家族に励まされて立候補したのですが、一回目の選挙は僅差で当選できませんでした。夫は素人だからと言ってくれましたが、私は手をあげた以上諦めない、一度落ちたからといって人は拾ってくれない。自分でやるしかないと思えば、その4年間地域の人々との交流を深め、地域に根差した街づくりのためお役に立ちたいと問題提起し話し合いを続けました。

幸い2回目に当選できたのですが、議会に参加するようになって、いかに私が物を知らなかったか、世界が違うということを感じました。当時の議会は24人の議員がいました。私は14人の会派に入りましたが女性はいらっしゃいましたが多くは女性議員はいませんでした。また、「議員に頼めばなんとかなる」という風習があり高度成長の時代には道路を直したり公民館を作るなどもできたのですが、私が就任した頃には予算の

枠もあり、もうそういったことは当然でなくなっています。

私は「議会は行政をチェックする機関であり、同時に議員は市民の声を代表して一般質問などを通して提言したり提案する権利を持っている」と考えています。所属する会派や先輩議員の指導のもと、市民の声を届け、実現したこともかなりあります。例えば、従来は小学校の卒業祝に英語辞書を贈っていましたが、自転車用ヘルメットに変えました。中学校では自転車通学を認めています。一方、英語は小学校の必須教科ですから既に辞書を購入している児童も多く、さらにはギガスクール構想も進められ、子どもも一人1台PCを持つ時代です。教育環境も大きく変わっているので、通学時の交通安全を重視しました。

しかし、課題もまだまだ多いです。特に当市は4キロ四方の狭い土地に学区制の小学校が8つ、中学校が5つもあります。ところが児童の数は段々と減っており、特に中学校は問題です。校舎が老朽化しているからと1つを売却して新しく建てようとしても簡単なことではありません。吸収されて廃校になる側にとつては大問題で、母校がなくなるといふこと

は卒業生にとつては一大事です。何しろ地域あつての学校ですから。また、50年以上も経っている学校をリノベーションして、小中一貫にする、中学校の数を減らすなどの構想もありますが、学校数を減らすだけでは解決とはなりません。

私も定例会で公共施設の再編と学校教育施設については、一般質問や要望を出すなど取り組んでいます。今後、児童・生徒の良好で充実した教育環境を整えるため、地域と学校が一体となって進めるよう、地域、保護者の方々に理解頂けるよう努めたいと思っています。

私が鶴ヶ島市に引越してきた頃は、近隣に50〜60代の方が多くいらっしゃいました。その頃の政治家が優れていたのか社会教育は進み、公民館（今は市民センター）も6つあり、女性が集って活動できる機会が沢山ありました。しかし、当時活躍されたご婦人も高齢になられ、片や次代を

担う若い方々は8割以上が共稼ぎともいわれ、いろいろな集いに参加できていないことが残念です。

高齢化と少子化は鶴ヶ島市だけでなく日本全体の問題だと思えますが、人口7万人余りと少ない当市にとつてはいかにして人口を増やし歳入を増やすかが大きな課題です。私も「ファシリテーターマネージメント」について一般質問し、人口急増期に整備された公共施設の老朽化対策、公共施設をいかに効果的、効率的に運営していくかの考え方を問うています。市でも今後10年間を見据えて、あるべき姿を「しあわせ共感安心のまち鶴ヶ島」と持続可能な案を策定しました

が、懸念される事項も多くあります。市の諸施設の多くが、借地であることもあり、賃料だけでもかなりのものになっています。現在鳩山町に建設中のゴミ焼却炉も、当市と隣接する3つの町での共同負担となりますが、人口割で計算すると大変です。

交通は、関越道・圏央道と2つの高速道路が使える便利な場所なのですが、通過するだけの車が多いのが残念です。ただ、老人福祉施設の数は日本一だと、過日週刊誌に掲載されていました。アクセスに便利で、景色の良い場所も多く、環境や設備が充



定期的に議会報告を配布。市民との交流に取り組みられています。

後輩へのひびき

実した有料老人ホームから特別養護施設、介護施設など、多くの受け入れ施設があります。あとは観光となる名産があると良いのですが。

若いうちから政治に関心を持って欲しいと思います。学生のうちから地域の問題、社会の問題に関心を持って欲しいです。私は、アメリカ民主党の副大統領候補に女性で初めて指名されたカマラ・ハリス氏の素晴らしいスピーチに感動しました。鶴ヶ島市でも、政治に関心を持ってもらうことを目的に、議員と子どもとのふれ合いの会の企画を進めているところです。

学生の皆様はコロナ禍により、オンライン学習が中心であったり、部サークル活動が十分にできなかったりする状況と思いますが、この逆境を乗り越えて自分が進むべき道を切り開かれることを願っています。

金泉さんは、2019年11月14日、埼玉県民の日に埼玉会館で行われた記念式典において、長年の地方自治へのご尽力と市議会議長としてのご活躍が評価され、埼玉県知事より地方自治功労賞を受賞されています。

新型コロナウイルス感染症対策「これまでの取り組み」

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、これまでの生活は一変し、「新しい生活様式」に切り替える「コロナ新時代」を迎えています。

東京成徳学園各校においても、これまで新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、様々な取り組みを行ってきました。そこで、本特集では、これまでに行われた各校の取り組みをまとめ、ご紹介します。

東京成徳大学

企画・IR室長
経営学部教授

長谷部 孝司

新型コロナウイルス感染症の拡

大により、本年度の授業運営は遠隔授業中心という異例の形となりました。教職員、学生共にこれは初めての経験です。学生には、システムでの操作方法の指導や受信機器類の無料貸出などの支援が必要となりましたが、幸い学生たちのITリテラシーが予想以上に高く、またサーバーなど大学の施設・設備の容量にも問題はなく、前期は大きなトラブルなく進めることができました。

しかし、遠隔授業では学生たちは大学に来る機会が得られません。特に新入生は、このままでは大学生になつたという実感や自覚を持つことが困難です。そこで後期からは、なんとか教室での対面授業を再開させようと、キャンパスや教室に十分な広さを持つ千葉キャンパスでは対面授業を基本とし、東京キャン

パスでは各学部が4週に1週の割合で登校し対面授業を行うこととしました。

対面授業再開にあたっては、十分な感染防止対策が必須です。教室では、座席間に十分な距離を置きつつ座席指定としました。三密防止とともに、万が一感染者が発生しても直ちに濃厚接触者を特定し、体調管理への注意喚起を行うためです。本人や家族の諸事情で対面授業の受講が困難な学生には、対面授業と並行して遠隔授業も行うこととしました。昼食時は他者との接触が最も濃密になりやすいことから、毎日、校内放送で注意を呼びかけるとともに、大

学スタッフがカフェテリアなどの見回りにあたっています。その他、図書館、就職支援、学生相談、学生募集活動などでも、前期と同様に対面方式のほかに電話やメール、WEB対応を続けるなど、授業、授業外ともきめ細かな対応を心がけています。

また前期の5月に、学生の遠隔授業の支援を目的として全学生へ一律10万円の給付を行いました。さらに、保護者の経済的困難などに鑑み学費の分納・延納の最長一年間の猶予の実施、家計急変により修学が困難な学生に対し授業料の10万円の減免の実施、経済的事情による卒業困難者に対する学納金の減免対象者の拡大などを行いました。

最後に、異例の事態ともいえる遠隔授業に対して、学生たちがどのように感じているかについても調べてみました。7月実施の「授業評価アンケート」では遠隔授業について、「トラブるなく受講できたか」に対しては「できた・ある程度できた」が93%、「対面授業と比べての受講のしやすさ」に対しては「良かった・やや良かった」が45%、「悪かった・やや悪かった」が24%、「対面授業と比べての学修効果」に対しては「上がった・やや上がった」が32%、「下がった・やや下がった」が27%、という結果になりました。

ひとまずはほっとしているところですが、総合的にみて、やはり一日も早く対面授業に戻ることが最善です。引き続き対応策を検討していきたいと思っております。

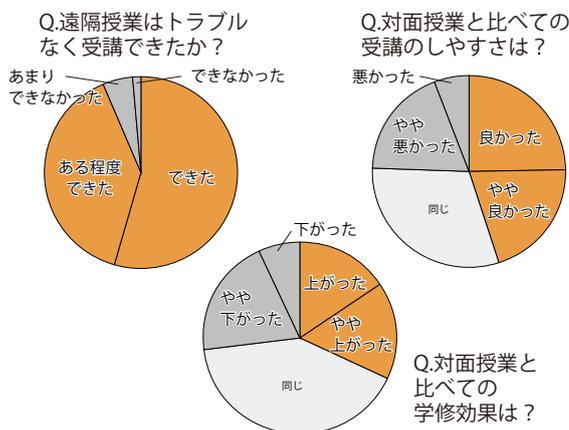
東京成徳短期大学

幼児教育科長 安見 克夫

コロナ禍でつなげる地域連携

短期大学幼児教育科は、保育士資格と幼稚園教諭免許の課程認定校として、幼稚園実習や保育所実習・施設実習などが義務づけられています。コロナ禍の中で、こうした実習を受ける学生と、園や施設との関係は、まさにこれまで積み上げてきた信頼関係でしかありません。

幸いにも、保育所や幼稚園、そして施設の大半が、本学の学生を快く受け入れてくださり、厳しい制約の中ではありますが、現在順調に実習が進められています。一部では、感





染のリスクが高くなるとして、実習の受け入れを辞退された施設や園もありましたが、施設職員の方々が特別講師として代替の演習授業を引き受けてくださるなど、全面的な協力をしてくださいました。心より感謝申し上げます。

学生が保育者として育つために、実習は不可欠な学びです。一人ひとりが社会に出て、幼児教育や社会教育に献身的に心を捧げようと決意する機会でもあるため、このような緊急事態の中でも全学生が卒業前にこのような経験が得られたこと、大きな成長につながったことと思います。



東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部教頭 石井 英樹

新型コロナウイルス感染症の拡大が報じられてからまもなく一年。今年度は様々な教育活動の制限を余儀なくされ、『これまでの日常』が過去の遠い記憶のように感じられるようになりつつあります。6月から学校が再開され、一旦は収まる様相を見せたかと思いましたが、季節が変わり、首都圏では再び感染の拡大が懸念されている今日です。しかし、このような状況の中でも、生徒たちの「学び」を止めることのないよう、一歩ずつ前進させていくために様々な対応をしています。

まずは、登校時（校舎内に入るとき）に、サーマルカメラと大型モニターを利用し、生徒の体温のセルフチェックを行っています。また「健康観察記録票」を朝のホームルーム時に回収し、咳の症状や味覚などの状態も併せて確認しています。



◀校舎玄関に設置されたサーマルカメラと大型モニター

▼登校時に検温と消毒をする生徒

次に、感染リスクが最も高いとされる「食事」ですが、手洗いを励行しマスクを外しての会話を慎むよう、生徒指導部及び生徒の協力を得ながら、毎日昼休み開始時に放送での呼びかけと巡回指導をしています。日々の積み重ねによって、少しずつではありますが感染防止対策を行う意図が多く、生徒たちにも浸透し、新しい昼食のスタイルが構築されてきています。また、食堂にはパーティションを設置し、物理的にも感染防止対策を施しています。



感染防止のため、食堂のテーブル中央に置かれる透明アクリル板のパーティション。座席も間隔を取っています。

その他、理科実験などでも、実験を中止するのではなく、ICTを利用した演示実験や、実験器具の共用を避けるため、個々に器具が行き渡るような内容にアレンジし、各自で実験を進めていくスタイルで展開しています。もちろん、実験机にもパーティションを設置し、感染防止対策にも努めています。

このように、物理的な対策を講じることが非常に重要なことではありますが、私たちが一人ひとりが、感染防止に努めていく意識が最も大切であり、その意識から派生する行動であるマスクの着用やこまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策を自ら実践し続けていくことが、今できる最善の策なのではないでしょうか。

東京成徳大学

東京成徳大学・東京成徳短期大学図書館長
人文学部国際言語文化学科教授

今仲 昌宏

現在、図書館を取り巻く環境は、「読書離れ」や「電子書籍」など大きな変化の波が押し寄せています。映像世代として育った学生諸君にとって「本を読む」メリットはどこにあるのでしょうか。映像は視覚を刺激し、具体的でわかりやすいという利点があります。一方、抽象的で高度な内容をじっくりと考え、理解したりするような場合にはあまり効果的ではないといえませんが。後者の場合は、まさに本の出番です。もちろん映像の力を軽視するわけではなく、二つの手段は上手に使い分ければ良いと思います。しかし二つある便利な手段を片方だけしか使わないというのは実にもったいない気がします。

図書館長賞

学生の皆さんに本学図書館を大いに活用してもらうため、学長を始めとして多くの方々のご尽力により、翠樟会*活動の一環として、昨年度、「Best Student Award 図書館長賞」を創設しました。この賞は、図書館の蔵書の貸出数が多いこと

や施設などの活用度が高く、学修などを中心におき、他の学生の模範となる学部生、大学院生を各学科から選出し、表彰するものです。

電子図書館サービス(ライブラリエ)



大学図書館の使命は、専門書を中心とした蔵書を完備するとともに、学生の学修に必要な学習環境を整備し、研究調査に対応することです。こうした努力を不断に継続しながらも、一方では読書の習慣があまり身についていない学生も多く見受けられます。一人でも多くの学生に是非幅広く読書の面白さを知って欲しいという意味も込めて、今年度から電子図書館サービスを開始しました。

これにより、貸出・返却の手続きが不要となり、いつでもどこでもスマホなどの携帯端末があれば、読書が可能になります。好むと好まざるにかかわらず、今後は紙ベースの本から電子書籍への移行が一層進んでゆくことは間違いないと思われます。本学図書館では、今後も学生の皆さんの知的好奇心に応えられるよう、両面からしっかりとサポートしていきたいと考えています。

東京成徳短期大学

幼児教育科長 安見 克夫

コロナ禍の園見学に参加して

短期大学は、2年間という短い修学期間において、保育士資格と幼稚園教諭免許状に係る単位と卒業に必要な単位と、併せて90単位以上を取得しなくてはなりません。そのため、カリキュラムも月曜日から土曜日まで空き時間がなく、実習の振替え補講などは、5限授業に行われております。こうした過密な時間割の中で、学生たちは他者と交流を深め、人として社会人としての人間力を学び合っています。今年度はコロナ禍で、前期はすべてがオンライン授業となりましたが、後期は対面授業を取り入れ、ハイブリッド授業となりました。対面授業は4週間のうちの1週間ですが、人と人がゆとりを持って交わる時間も用意されました。しかし感染防止の観点から、会話や昼食の取り方などに制約がある中で、学生生活が続いています。こうした中でも、1年生は課題研究Aというゼミ形式の授業が行われていることから、比較的先生や学生間のコミュニケーションが取りやすくなっています。また2年生の後期に設定されている教職実践演習の授業では、アクティブラーニング授業が取り入れられており、学生同士が直接語り合う機会



がなかなか得られない代わりに、遠隔リモートのリアルタイム授業などで、学生同士のつながりを大切にしています。また、11月中旬には、近隣の幼稚園や保育園での園見学授業が行われました。コロナ禍での厳しい制限を受けながらも、晩秋の陽だまりの中で、学生は子どもたちと接する機会を得て、目を輝かせ、「Aちゃん、これやる？」と笑顔で声がけする姿がありました。また、引率の先生からは子どもたちが遊んでいる姿や保育環境に対して解説をしてもらい、僅かな時間にもかかわらず、一所懸命子どもと関わり、保育者になる決意を固めていたように感じました。しかし、こうしたコロナ禍での園見学で観た子どもたちの姿は、少なからず通常時の子どもたちの姿ではなく、4月あるいは3月から長らく休園していた期間による育ちの遅れを観ることとなりました。学生にとっては、まだほとんど実感を得ないことですが、専門性の学びとしては、これらの変化を授業の中でしっかりと解説し、就職後の保育に生かせるよう指導していきたいと思えます。

* 翠樟会：東京成徳大学の後援会

Topics

東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 教諭 木内 雄太
法人本部 副本部長

ICT強化(プログラミング教育)
学校法人片柳学園との教育提携

IOTやAIの技術などが発達し、これからの社会は Society5.0 の時代を迎えるといわれています。この新しい時代を生きる生徒・学生は、今までは違った様々な力が求められるようになってきています。プログラミングはそのうちの一つであり、小学校ではプログラミング教育が必修化されました。中等教育においても新学習指導要領において、中学校の技術家庭科、高等学校の情報科の中でプログラミング教育の充実が図られています。

こうした世の中の動きの中で、本校では、より専門的なプログラミング教育の実践を行うため、学校法人片柳学園(東京工科大学・日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校)とプログラミング教育について提携を行



う運びとなりました。

今年度は、中高一貫部の4年生(高1生)を対象に開講されている Diversity Seminar の「アプリを開発しよう」の授業において、生徒たちはアプリ開発のためのプログラミング(A People社のSwift, Xcode)を学んでいます。その授業の中で日本工学院専門学校の中西先生にお越し頂き、Xcodeについて教えて頂いております。来年度以降は、主に中学生を対象に授業支援を行ってもらう予定です。今後、本校のプログラミング教育が充実していく予定です。



中高一貫部



高等部



中高一貫部・高等部共に、学校紹介の動画を配信中。各校のホームページ、またはYouTubeチャンネルよりご覧いただけます。

高等部 教諭 倉橋 賢吉

コロナ禍を乗り越えて開催
『SEITOKU DAY』

今春から続く新型コロナウイルスの感染拡大という状況下にあり、6月の体育祭、9月の文化祭(桐蔭祭)の開催は相次いで「中止」となりました。しかし、多くの制約がある中でも、生徒は高校生活を充実したものにしようと考え、在校生限定の校内イベント開催に向けて動き出しました。

限りある時間を遣り繰りしながらも、短期間で準備を進め、9月18・19日に『SEITOKU DAY』と銘打った校内イベントを2日間、にわたり開催しました。三密の配慮など、運営上の工夫をしながら、準備から開催までいくつもの困難はありましたが、それを乗り越えて実施されたイベントに、生徒たちは皆笑顔でとても印象的でした。



ダンボールで首里城を作成し、優秀賞を受賞した2年F組の生徒の皆さん。



『SEITOKU DAY』の動画はこちら



『SEITOKU DAY』の活動の様子

はホームページのほか、高等部 YouTube にて動画でも公開中です。生徒の生き生きとした姿を、ぜひご覧ください。



コロナ対策をした開会式はカメラを通じて各教室へライブ配信。



スポーツイベントのサッカー観戦での一枚。

Topics

東京成徳大学深谷中学・高等学校

教諭 猪野 真美

第8回桐蔭祭(中学)

今年度の深谷中学校第8回桐蔭祭は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、規模を縮小し、令和2年11月21日(土)に開催いたしました。メインは学習発表です。発表のテーマは、1年生が9教科の中から、2年生が自分の興味・関心があります。ここからは、3年生は自由に設定します。ここでは、3年1組上田朱佑さんの感想を紹介いたします。

「新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は多くの行事が中止にな



た、聞いて
いる人を引
き付けるこ
ともできた
と思います。
3年間で、
大きく成長
できたと思
いました。
余談にな

りましたが、この桐蔭祭は、多少の制約はあったものの、開催できて良かったです。
毎年開催される桐蔭祭ですが、前で発表するのは、緊張します。1、2年生の頃を振り返ってみると、パワーポイントの使い方がよくわからなかったり、下を向いてしまったり、原稿を読むだけの発表になってしまったりと反省点ばかりでした。
しかし、今回はリラックスして臨むことができました。これは、行事にかかわらず、普段の学習の中でも発表する機会が多く、自然と発表するということに慣れてきたということもあると思います。リラックスすることができると、原稿を準備したとしても、棒読みにならず、自分の言葉として伝えることができました。すると自分自身も楽しく、ま



りますが、弟が1年生にいます。自分の発表より、弟の発表を聞いている時のほうが緊張しました。」

オペレッタ発表会2020 (高校)

教諭 立花 和美

令和2年11月28日(土)、JA埼玉

ひびきのホールにおいて、進学コース保育系生徒によるオペレッタ発表会が行われました。演目は、1年生が「長靴をはいたネコ」、2年生が「サルカニ合戦」と「青い鳥」、3年生が「ピノキオの冒険」と「見習い魔女の冒険 シンデレラをお手伝い!」。当日はコロナ対策を講じ、保護者のみの公開としました。ここでは、3年A組齊藤萌々さんの感想を紹介いたします。

「今年には新型コロナウイルス感染症が流行し、学校行事や保育系の活動が思うように行えない中、3年生最後のオペレッタ制作と発表を行うことができ、とても嬉しかったです。本番の前日まで、3年間の集大成として一人ひとりが良い作品を作ろうと一生懸命取り組んできました。放課後毎日学校に残り、大道具を作った

り歌の練習をしたりすることは大変でしたが、より良い作品を作りたいという強い気持ちを持ち、皆で支え合うことで乗り越えることができました。オペレッタを無事に終えることができたのは仲間がいたからだと思えます。お互いの個性を尊重し合うことで、3年A組にしか作れない作品に仕上げ、成長することができたと感じました。本番の発表を終えて、拍手を頂いた時は、感動と達成感でいっぱいでした。

最後に、オペレッタを制作するにあたり、力を貸してくださった先生方、発表を見に来てくださった保護者の皆様、どうもありがとうございました。」



オペレッタ発表会
3年生による
「ピノキオの冒険」



発表会に向けて
音楽室で行われた
練習の様子

Topics

東京成徳短期大学附属幼稚園

教頭 梶山 久美子

秋晴れに恵まれた10月25日、東京成徳大学高校(高等部)の人工芝グラウンドにて運動会を開催しました。運動会は子どもたちがとても楽しみにしている行事であるため、中止ではなく、学年別という形で密を避け開催しました。例年とは違う運動会となりましたが、ご家族の方からたくさんの拍手が送られ、子どもたちの達成感に満ちた笑顔はとても印象的でした。



大学・短期大学の就職・進路

大学・短大就職支援センター長
特任教授 猪又 優

コロナ禍における就職活動

●初期インターンシップの良好な結果
例年どおり3月に開始した就職活動は、非常に好調な滑り出しでした。昨年の好調な経済状況に伴う新卒への採用意欲の高まりを背景に、インターンシップの積極的な受け入れもあり、その機会を利用した学生が3月初めには内々定を頂ける状況でした。

●中期① 新型コロナウイルスでの採用選考の遅れ
しかし、3月中旬以降新型コロナウイルス感染者が徐々に増加し始め、4月8日からは7都道府県に緊急事態宣言が出されました。例年ですと、企業エントリーの後、対面での企業説明会、選考、4月半ばには内々定が開始されますが、今年には感染防止を最優先とし、多くの企業が採用プロセスを一時中止しました。そして、就職活動をする学生も活動の中断を余儀なくされました。

●中期② オンラインという新しい選考
5月以降大企業を中心に、急遽オンラインでの企業説明会や面接に切り替え選考を再開しました。学生は自宅内で安全に企業の情報を入手できるので概ね好評のようです。しかし、面接となると、やはり直に会って自分を知って欲しいと不安を抱いていました。なおその

他「三密」を徹底的に管理しながら対面での選考を始める企業もありました。

●後期 経済打撃の影響

新型コロナウイルスの第一波が収束し、企業も学生も新しい採用スタイルに慣れ、徐々に内々定までこぎつける状態となりましたが、昨年度には程遠い状態でした。7月以降感染者が再び増加傾向となり第二波がやってくる。再び多くの企業で長引く感染の影響による業績悪化が顕著になってきました。そのため、なるべく多くの学生と接する機会を持ちたい企業も、選考の遅れは次年度計画にも影響すると考え、例年に比べ母数が少ないまま選考・内々定出しを行っています。

●東京成徳大学での対応

本学でも全く未経験の状況下、試行錯誤ではありますが、多くの対策を実施してきました。まずは、4月27日よりWEBでの就職相談を開始しました。このWEB相談では、書類作成や企業選定、面接対策など具体的なアドバイスのほか、漠然とした不安などにも対応しています。5月以降は、学内外での就職活動イベントの情報を学生に頻繁にメールで提供するとともに、就職担当教員とキャリア支援担当職員の頻繁な情報交換を通じた個々の学生支援の充実、夏休みには就職活動で遅れる学生を対象としたオンラインセミナー、公的機関と連携した支援など、ありとあらゆる方法による支援を継続しています。

内定者インタビュー



応用心理学部 臨床心理学科
常盤 歩 さん

【内定先】
医療法人 IMSグループ

■就職活動を振り返って

2月にインターンシップに参加した時に、私が就職活動をするうえで大切にしていることと一致するところがあり、志望を決めました。その後、採用試験や面接を受け、7月に無事、内定となりました。内定の連絡を頂き、胸を撫で下ろし、安心した一方で、就活はもっと大変と考えていたので、思ったよりスムーズに決めることができました。

■コロナ禍での就職活動

就職活動中は、キャリア支援課の方にお世話になりました。コロナの影響で、周りの就活生の動向を知ることができず、焦りたくても焦ることができない状態でした。働く自分を想像しては、気に病むこともありました。そんな時、職員の方が志望動機の添削や面接練習、何気ない進路の悩みを聞いてくださり、心の枷が外れ、とても楽になりました。

まずは、自立して生活するための資金を蓄えることを目標に、社会人1年目を頑張りたいと思います。



経営学部 経営学科
新田 篤子 さん

【内定先】
東京シティ信用金庫

■就職活動を振り返って

地域に密着し、その地域のお客様が持つ課題のお手伝いをしたいと就職を志望し、7月に内定を頂きました。本学経営学部の入学も、心理学とマーケティングを学びたいとの思いからです。高校の時、アルバイトで商品の陳列ひとつにもお客様の購買心理に影響し、見えないところで売上げ増の工夫があることを知り、興味を持ったことがきっかけでした。

■コロナ禍での就職活動

オンライン面接では、自分の表情や雰囲気伝わるか不安でしたし、綺麗な背景を用意するのも意外に大変でしたが、貴重な経験をしました。キャリア支援課の存在は大きく、何度も励まして頂いたおかげで、就職活動をやり切れたと思っています。

内定を頂き、ホッとしたのと同時に、4月から社会人という緊張感がありますが、将来はどんな時にもお客様に寄り添い、お客様から信頼して頂けるよう、人々とのつながりを大切にしたいです。

今後の入試日程

※詳細は各校ホームページでご確認ください

東京成徳大学 / 東京成徳短期大学

※出願最終日は消印有効（一般選抜 D 日程のみ、窓口受付日を設けています）

入試	出願最終日	選考日	入試	出願最終日
一般選抜 A 日程	1月21日(木)	2月2日(火)	大学入学共通テスト利用入試	
一般選抜 B 日程	2月3日(水)	2月15日(月)	1期	1月29日(金)
一般選抜 C 日程	2月15日(月)	2月24日(水)	2期 (大学のみ)	2月17日(水)
一般選抜 D 日程 (大学のみ)	郵送:3月2日(水) 窓口:3日(木)	3月10日(水)		

東京成徳大学高等学校

※出願最終日は消印有効

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第1回	1月27日(水)	2月10日(水)
一般入試 第2回	※WEBでの出願情報登録は1月24日(日)まで	2月14日(日)

東京成徳大学深谷高等学校

※出願最終日は、2月一般・2月単願:郵送必着、3月単願:窓口受付

入試	出願最終日	選考日
一般入試 2月一般・2月単願	2月2日(火)	2月6日(土)
一般入試 3月単願	3月10日(水)	3月10日(水)

※各入試の関係書類提出前に、WEBでの出願が必要です。
WEBでの出願は、2月一般・2月単願:1月30日(土)まで、3月単願:3月9日(火)のみ。

東京成徳大学中学校

※WEBのみで出願手続は完了。郵送は不要

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第1回 午前/午後	1月30日(土)	2月1日(月)
一般入試 第2回 午前/午後	2月1日(月)	2月2日(火)
一般入試 第3回 午前	2月2日(火)	2月3日(水)
一般入試 第4回 午前	2月3日(水)	2月4日(木)

東京成徳大学深谷中学校

※WEBのみで出願手続は完了。郵送は不要

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第3回	1月21日(木)	1月23日(土)
一般入試 第4回	2月5日(金)	2月7日(日)

※一般入試 第1回~第2回の出願、試験は終了しました。



学校法人 東京成徳学園	https://www.tokyoseitoku.ac.jp/	
東京成徳大学大学院	https://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	https://www.tsu.ac.jp	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	https://www.tsu.ac.jp	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	https://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	https://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	https://www.tsfj.jp	電話 048-573-1784
高等学校	https://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383
学校法人 東京成徳学園	〒114-8526 東京都北区豊島 8-26-9	TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室		東京成徳広報 第49号 2021年1月発行